

各地区テーマ

「地域医療」

大山

Q：県内でも吉田町や裾野市でやっている「子どもの医療費無料化」には反対。無料ならばたいした症状でもないのにすぐに病院に来て大変混雑する。病院へ行っていやなことは長い時間待たされること。重い症状や痛みがひどいときにはなおさらだ。罹る人がきちんと負担することが原則。医療の無料化はしてほしくない。

A：市では小学校入学前まで、6歳以下の子どもに対して通院で月4回まで1回500円自己負担、5回目以降は自己負担なし。入院で1日500円自己負担。議会議員から無料化の提案もあるが、応分の負担は必要だろうと考えている。ただ現状の就学前までという年齢を引き上げてほしいという声が多い。県内ですでに引き上げている自治体もある。来年度の当初予算の中で対象年齢引き上げは考えたい。

門屋

Q：門屋地区は土砂災害の危険地域に指定されている。来年早々に避難訓練を計画している。地震のような事後の避難と違って、土砂災害の危険が迫り避難勧告されてからの避難はある程度落ち着いてできるだろう。しかし、病床に伏せている人の避難場所はない。病院で避難者を受け入れてくれるのか。公民館などの避難所で床に伏せていなければならないのか。

A：病院では年に2回は訓練をして、そのうち1回は被ばくの訓練をしている。何か起きた場合は病院に来てくれて構わない。空きベットや廊下など空スペースはある。体の不自由な人は多いし非常に大事なことだと思う。困っている人は助けるのが当たり前。訓練は事務方を通して連絡してほしい。やはり市民や消防、行政、病院など連携が大事。地域と連携しての訓練も計画が合えばやってみたい。

「産業の振興と企業誘致」

新野

Q：本年度有ヶ谷地区工業用地の調査をしているということだが、企業を誘致する環境整備、特に新野に入ってくる道など道路が整備されていない。代表例として、県道バイパスから山田ヶ谷を通り、増田組の事務所の前から、新野川東側の市道へと通じる道路がある。この道路の交差点は食い違っており、新野川の橋が狭く3mしかない。市道へのとりつけも一車線である。対面交通できない道路では企業誘致も難しいのではないか。この先どのような計画をもっているのか。

A：企業立地で一番言われることは用地の坪単価であり、スズキの関連企業からは6万円/坪以下で整地にしないと進出が見込めないとされている。新野地区は、山や谷が多い地形であるため、整地に金がかかる。有ヶ谷地区も調査に入っているが、コストがどうなるか。

また、確かに増田組事務所から東に行く道は、狭い。西部線の延長が黒田地区につながれば大型のトレーラーが新野地区に入ってくる。トレーラーが曲がれるよう、議員さんや町内会長さんに協力してもらい、道路拡幅の話は進めている。トレーラーが通れなければ、企業立地はできない。増田組付近の橋は、今後も県へ要望していく。

「御前崎の教育」

下岬区

Q：平成19年5月18日の日付で大山区、下岬区、上岬区の町内会長連名で「灯光園西側の交差点は通学路になっているが信号待ちの際、子どもは待機場所がなく県道にはみだした状態で待っている。危険であるため改善してほしい」と要望書を出した。回答はどうなっているのか。

A：現場も確認している。また、平成19年10月10日に「手すりを設置してもらえないか」との要望で建設課でガードパイプを設置した。市としても待機所は早急に対処したい。地権者の同意がないため施工できない状態。地元も協力してもらいたい。また、一方の道が県道であるため御前崎土木事務所との協議、公安委員会との協議があり課題がクリアできれば早急に対処したいと考えている。同意書など書類についても町内会で協力いただきたい。

下岬区

Q：法面に鉄パイプなどを使って待機所を作れるのではないか。

A：法敷地は幅も狭く、応急措置のような待機所となってしまう。しっかり交差点を改良しなければ土木事務所も地元も納得できない。市としても改良できるように検討していきたいと考えている。

西側区

Q：御前崎小学校南側の学童保育跡地前にある電気の引込み線がプラスチックのカバーで危ない。中部電力にも確認したが市の管理ではないかと言われた。もっと安全なカバーにした方がいいのではないか。

A：早速、現場を確認し対応させてもらう。

西側区

Q：マナーモデルのバッジは余分にいただけないのか。1つでは足りない。

A：必要であれば複数差し上げる。

西側区

Q：先日市役所を訪れた際、気持ちの良い挨拶をしてもらった。これからも続けてほしい。

A：職員もがんばっているがまだまだだと感じている。今後とも気持ちの挨拶ができるように努力していきたい。

「子育て支援」

中町

Q：市内には子どもを安心して産める開業医もいないし、病院にもない。今後どうだ。

A：平成15年に産科医が引き揚げた。産科医は最低2人以上いないと実情は困難だ。今のところ見通しは立たない。菊川にも2人しかいない。全国的にも産科医は増えていないが女医の割合が増えている状況。